

2014-4-2

# 鹿の皮膚

鶏病理 石原未希

提出機関: Connecticut Veterinary Medical Diagnostic Laboratory

患畜: オジロジカ (*Odocoileus virginianus*)

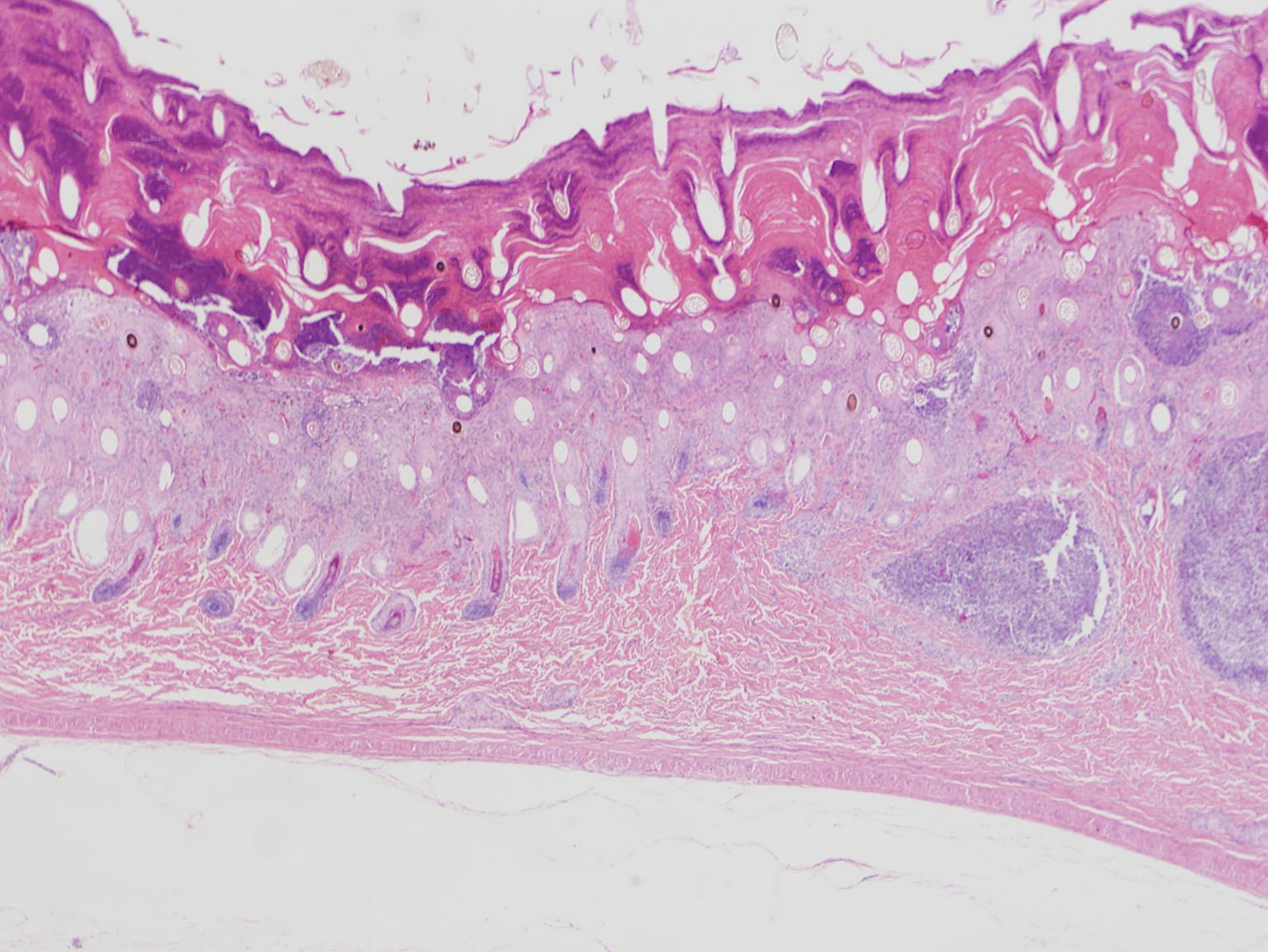
雌 1ヵ月齢未満

病歴: コネチカット州の農場で夏季に衰弱、消瘦状態で発見。皮膚状態が懸念されたため、銃殺され解剖。

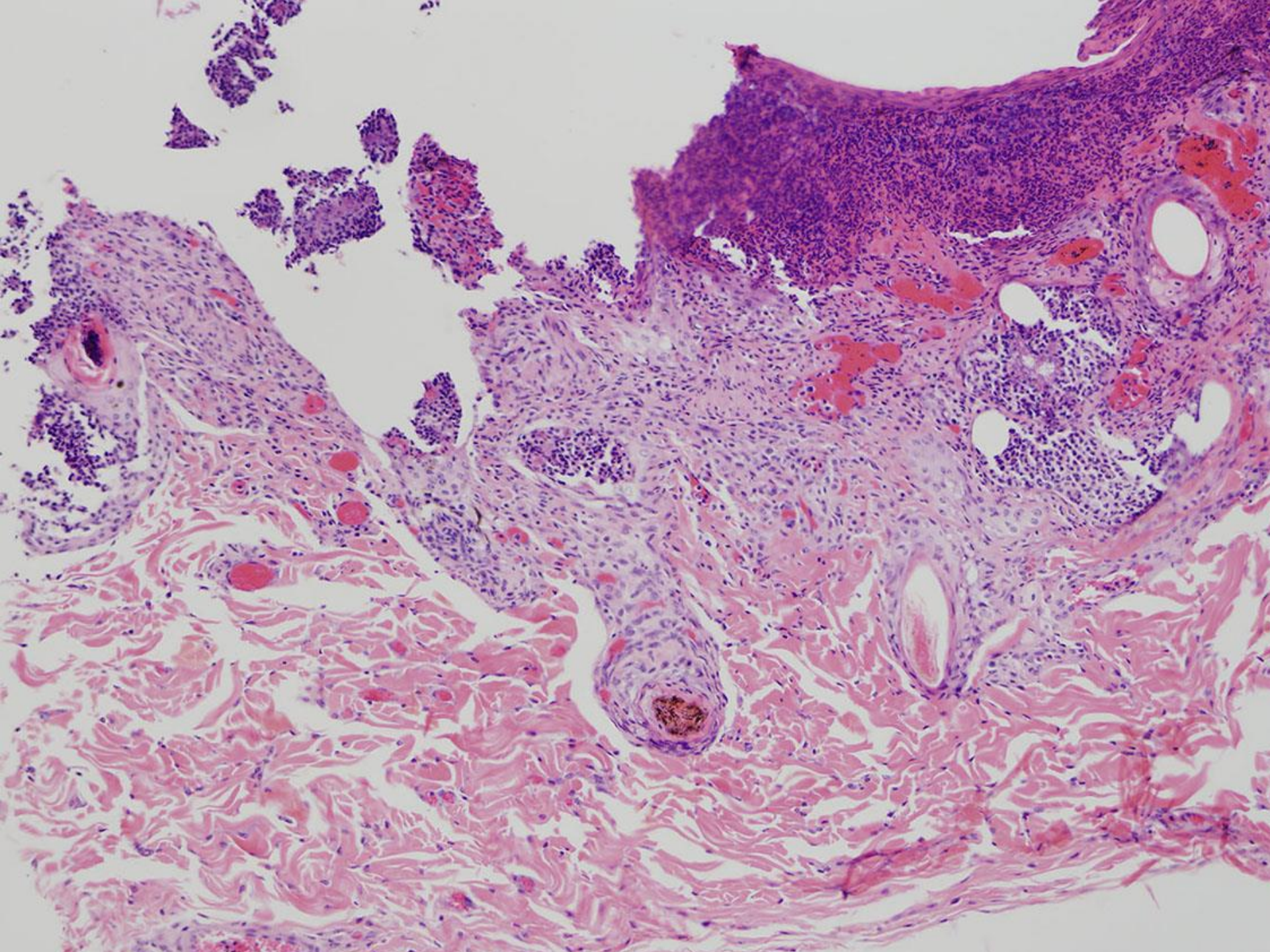


検査結果: 実施せず

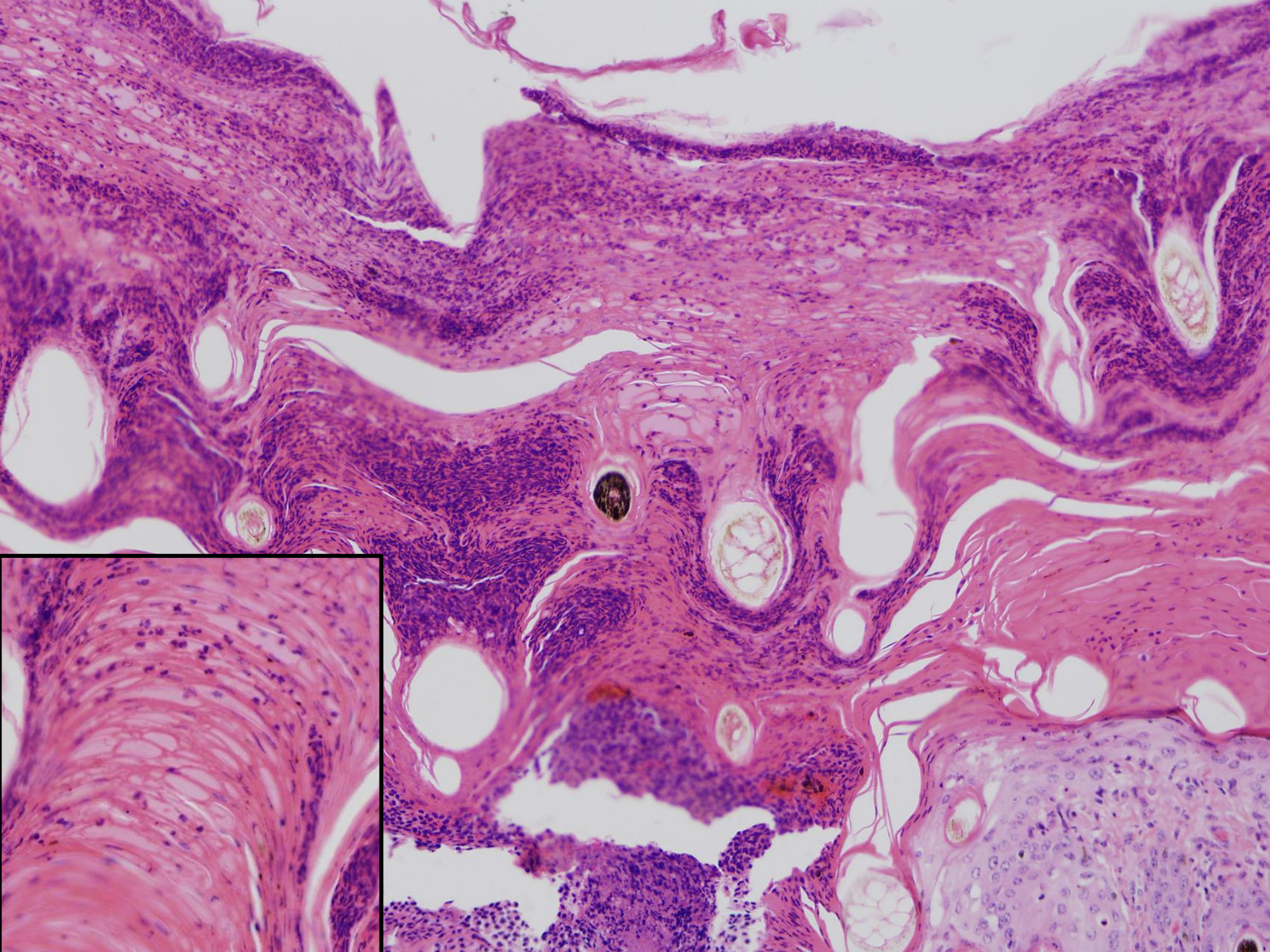
肉眼所見: 皮下および内臓脂肪の欠乏。広範囲におよぶ脱毛と四肢全ての赤色擦過傷。厚さ1~2mmの痂皮を体表全体、特に体幹の背側と顔に形成。



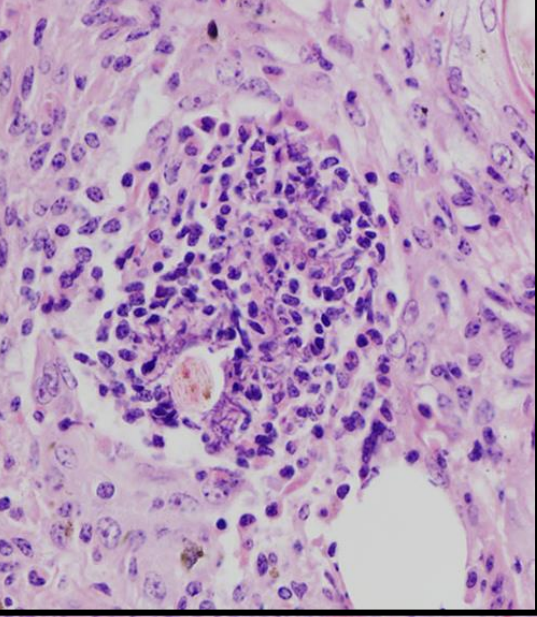
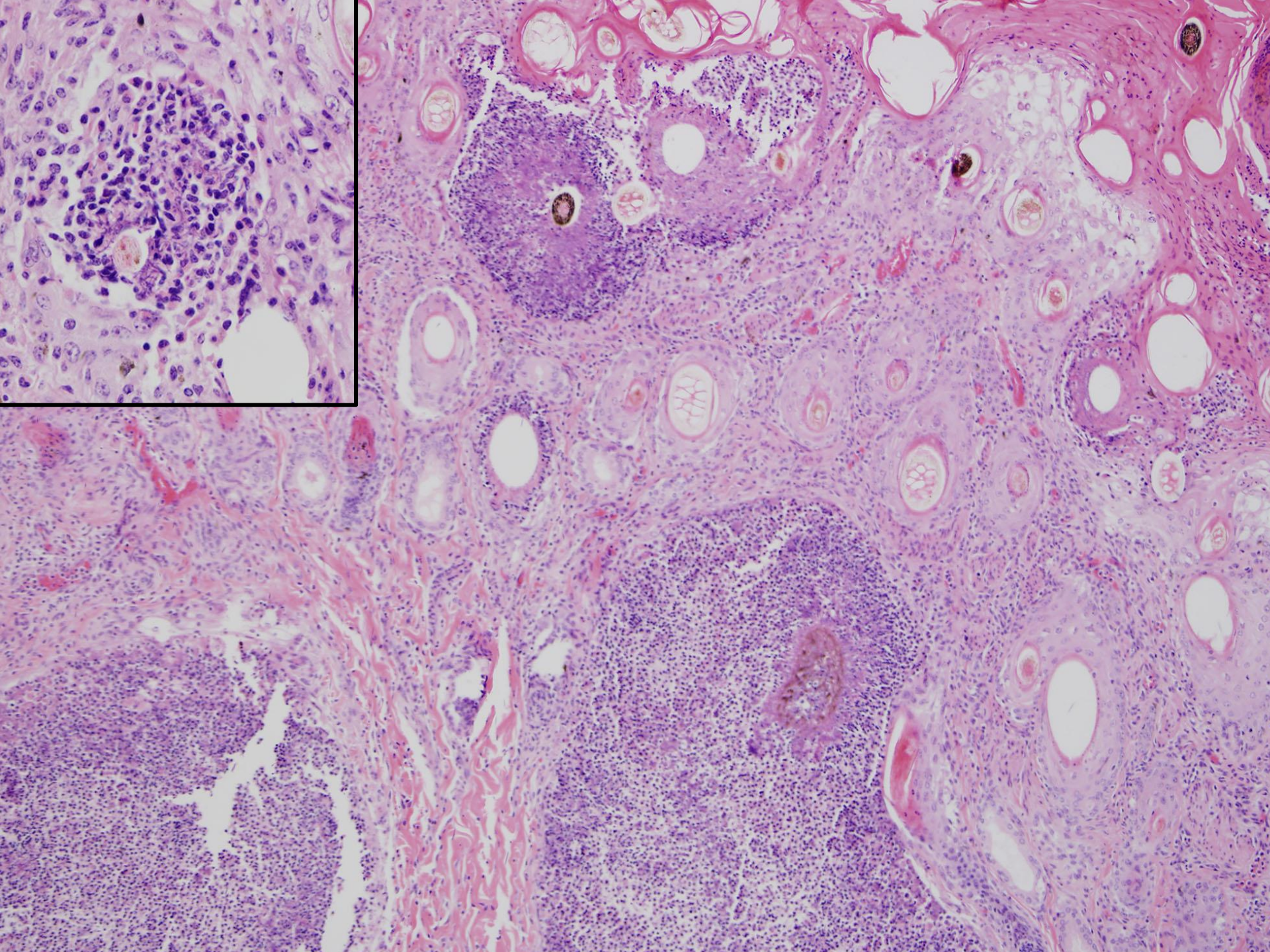




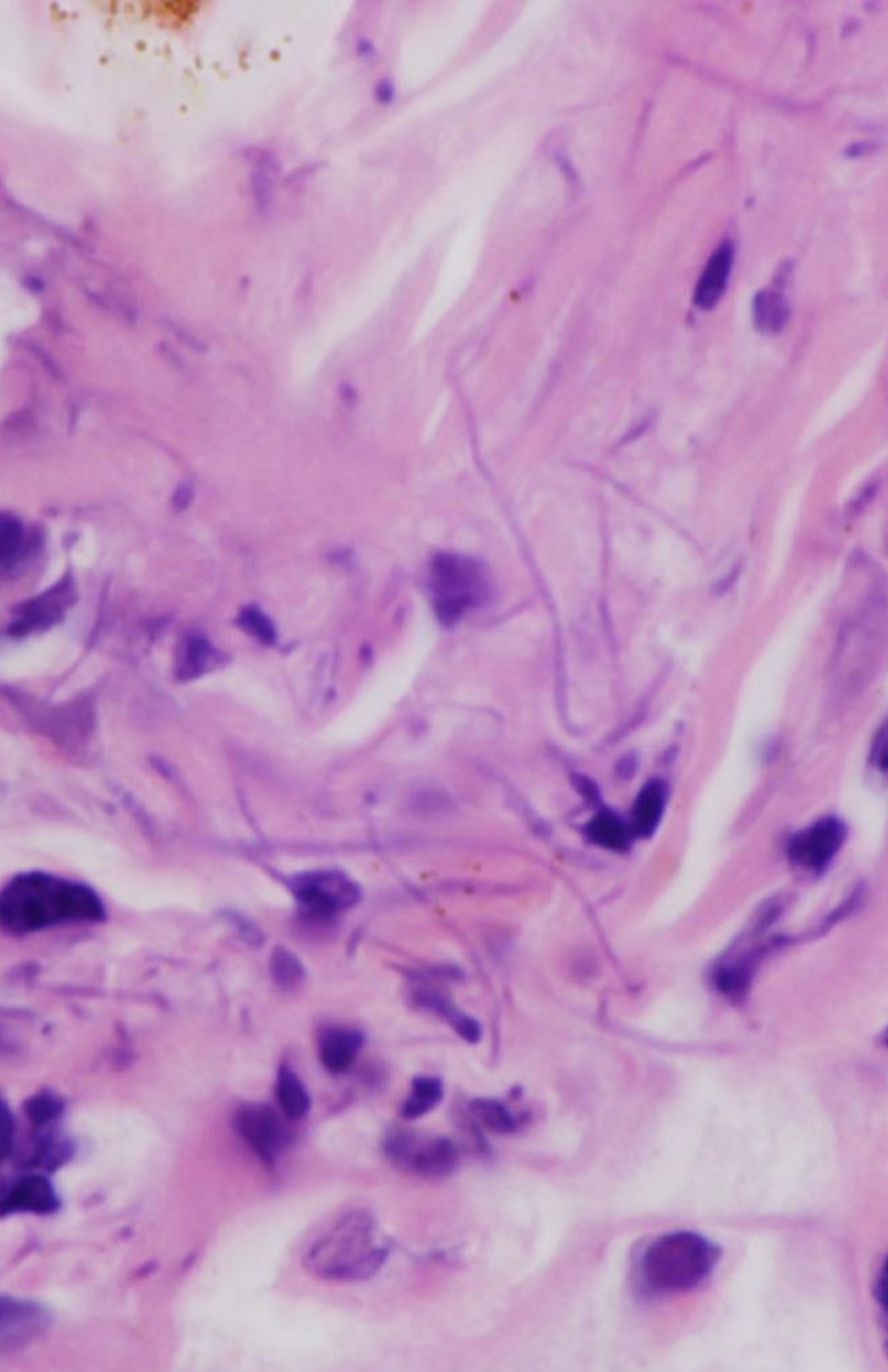




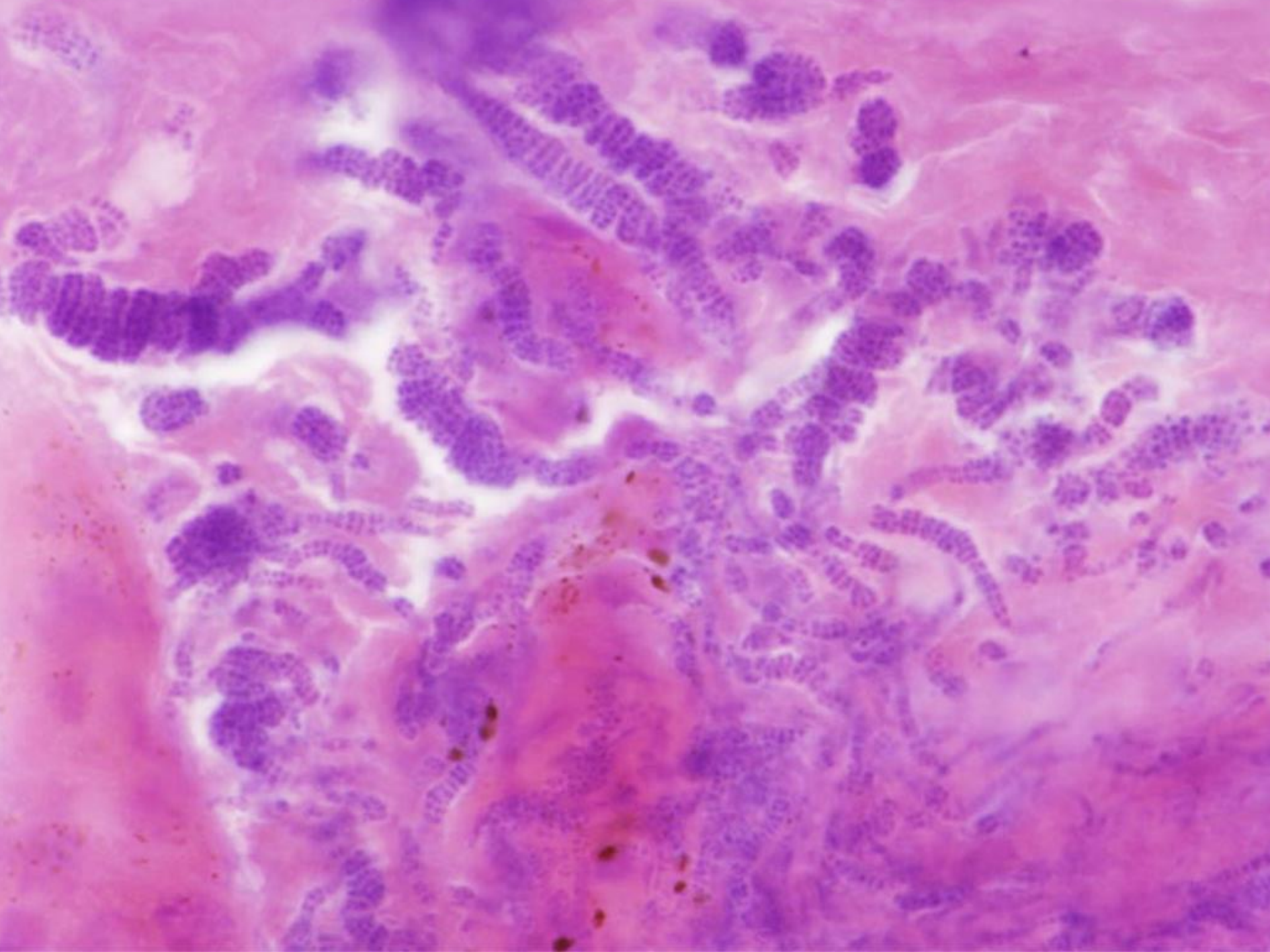












## 提出者の診断

皮膚：*Dermatophilus congolensis* と一致する糸状および球状細菌による、錯角化症、せつ症、潰瘍を伴う、重度、滲出性、痂皮形成性の好中球性皮膚炎および毛包炎

Skin: Severe, exudative, crusting and neutrophilic dermatitis and folliculitis with ulceration, furunculosis, parakeratosis, and filamentous and coccoid bacteria, consistent with *Dermatophilus congolensis*.

## JPCの診断

被毛部皮膚：無数の菌糸様細菌による不全角化性角化亢進症、上皮過形成を伴う、重度、びまん性の化膿性表皮炎および毛包炎

Haired skin: Epidermitis and folliculitis, suppurative, diffuse, severe, with epithelial hyperplasia, parakeratotic hyperkeratosis, and numerous filamentous bacteria.

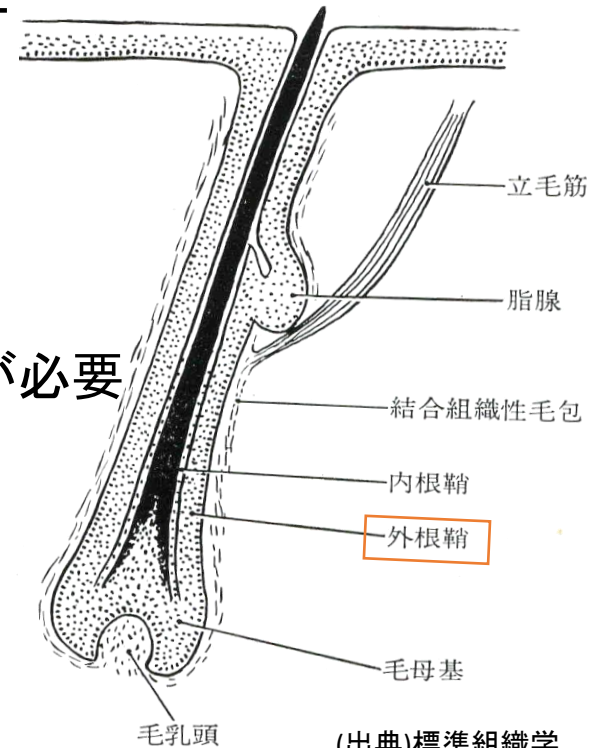


# 提出者のコメント

- ・肉眼および組織所見から、本症例はデルマトフィルス症の典型例
- ・デルマトフィルス症: *Dermatophilus congolensis* に起因
  - 世界的に分布しているが、熱帯および亜熱帯気候で長期雨季中に発生の傾向
  - 家畜では牛、羊、山羊に最も認められ、馬ではそれほど多くない
  - 人獣共通感染症、オジロジカからヒトへ伝播した事例報告あり
- ・本症例の病変は顔面だけでなく、全身性で非常に重度であった
- ・子鹿の衰弱は重度のデルマトフィルス症に起因していた

- ・診断の根拠: 縦横分裂性グラム陽性球状菌の(線路様)平行配列による特徴的な糸状構造が関与した、厚い層板状の痂皮形成

- ・感染の成立および拡大には皮膚の損傷と一定の湿度が必要
- ・外部寄生虫は本症における機械的伝播の役割
- ・組織病変は通常、表皮と毛包の外毛根鞘に局限し、リンパ節や他の組織への病変はまれ







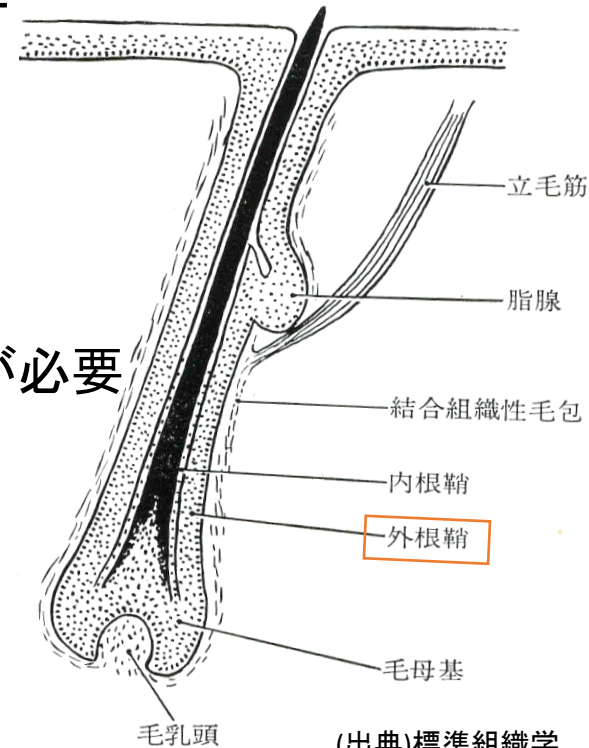


# 提出者のコメント

- ・肉眼および組織所見から、本症例はデルマトフィルス症の典型例
- ・デルマトフィルス症: *Dermatophilus congolensis* に起因
  - 世界的に分布しているが、熱帯および亜熱帯気候で長期雨季中に発生の傾向
  - 家畜では牛、羊、山羊に最も認められ、馬ではそれほど多くない
  - 人獣共通感染症、オジロジカからヒトへ伝播した事例報告あり
- ・本症例の病変は顔面だけでなく、全身性で非常に重度であった
- ・子鹿の衰弱は重度のデルマトフィルス症に起因していた

- ・診断の根拠: 縦横分裂性グラム陽性球状菌の(線路様)平行配列による特徴的な糸状構造が関与した、  
厚い層板状の痂皮形成

- ・感染の成立および拡大には皮膚の損傷と一定の湿度が必要
- ・外部寄生虫は本症における機械的伝播の役割
- ・組織病変は通常、表皮と毛包の外毛根鞘に局限し、リンパ節や他の組織への病変はまれ





# 会議のコメント

- ・提出例は家畜でみられることの多いデルマトフィルス症についての優れた要旨
- ・宿主の皮膚バリアの崩壊＋遊走子の活性化に必要な湿潤状態  
→劇症感染を誘発
- ・*Delmatophilus*属菌：菌体外酵素を産生、低CO<sub>2</sub>環境に親和性  
→表皮への定着および組織特異性を促進
- ・感染時：ケラチノサイトの角化＋真皮への細菌侵入を阻む好中球浸潤による宿主の効果的な感染応答により、  
→表皮毛包の前駆細胞が増殖し、新しい表皮の層を形成  
→新しい層に対しての細菌浸潤が繰り返し行われる  
→宿主応答の防御に失敗した場合は厚い層状で不全角化した痂皮が毛包を巻き込みながら形成される
- ・本病変はこの細菌感染に特徴的で、今回の症例でも良く例示されている

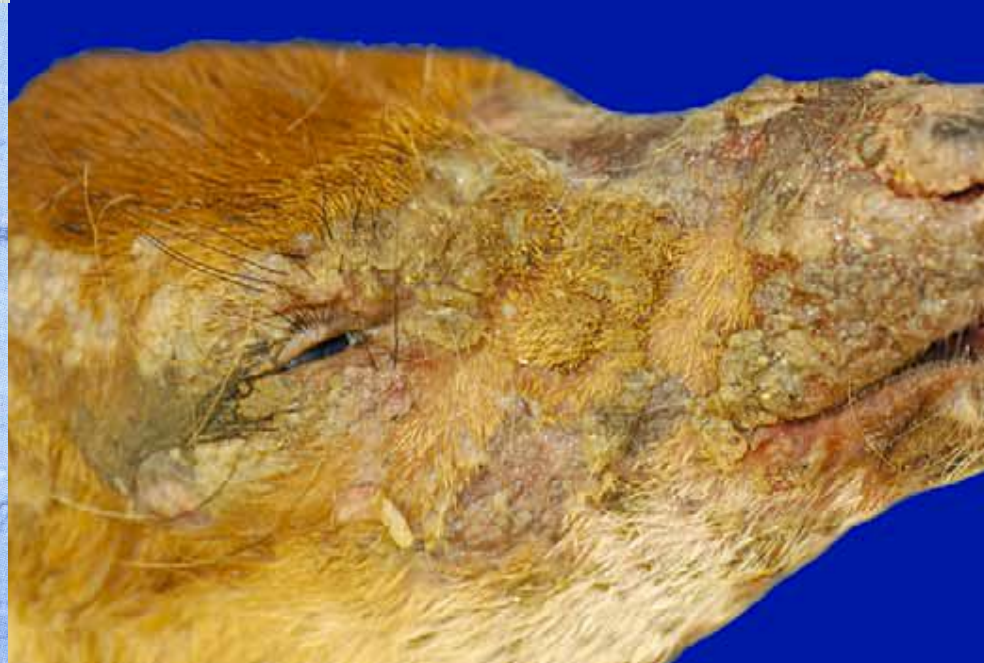




(出典)獣医感染症カラーアトラス



Veterinary Record 154, 635-636(2004)



Veterinary Pathology Vol. 51(3) 633-640(2014)